Keio Associated Repository of Academic resouces

Author	Title	慶應義塾の看護教育:百年のあゆみ				
Author 藤井、千枝子(Fujii, Chieko) Publisher 慶應義塾大学 Publication year 2019 Jittle 学事振興資金研究成果実績報告書 (2018.) Jal C DOI Abstract 慶應義塾における看護教育は、1918年の慶應義塾大学医学部付属看護婦養成所設立に始まり、18年度に100周年を迎えた。本年度までに、同窓会である紅梅会の会報と、歴代の卒業アルバムや行事写真等のおよそ110年デジタル化した。さらに、学校史料として、1917年の設置認可など、慶應看護の変遷に関わる料を整理した。古い資料は、劣化も激しく、今後に向け、保存方法の検討とデジタル化を行っ。これは、慶應義塾福澤研究センターの専門的な助言と看護医療学部図書室の鈴木、赤堀によ。また、小池、朴、田村、安田、中尾、山内、蘇井らは、資料の分類整理した。建物や教育、服史等の慶應看護100年をまとめてきた。2018年度は、小池、山内、田村により、1945年の空襲による火傷で入院された小泉信三元塾島の看護に関わった看護婦にインタビューした。同時に、太平洋戦時下の信濃町の空襲の様子もられた。看護婦、医師らは、力を合わせ、患者を安全な病棟に移送した。爆弾が体の横を通る中、担架をかつぎ、時に患者をおぶるなどして、遊難したとい奇かに話られた。1957年には、泉信三元塾長より、慶應看護にで「愛スルモノハ強シ」という色紙を寄せていただいた。その言葉は、様章の裏に刻まれた時代もあり、慶應看護の真髄として引き継がわることを示唆した慶應看護教育の名称は幾度となく変化してきたが、慶應看護は常に義塾の中で学を深めてきる・本研究は、慶應看護の先人たちの足跡をたとり、次の世代に託す貴重な史実を明らかにした湘南藤沢学会や慶應義塾出版会の協力による慶應看護100年史と写真集の完成、DMC統合研究ンター制作による記念映像などの多くの尽力と、3 年間の学事振興資金による補助により、慶看護100年のアーカイブ化が遂行できた。Nursing education in Keio University began in 1918 and marked the 100th anniversary this year We digitized more than 100 books, such as alumni bulletins, graduation albums and photo book The old material was quite deteriorated. For this reason, we changed the preservation method. In this year, we interviewed nurses of University president, Shinzo Koizumi's former nursing tea in 1945. We heard about the hospital situation in Keio during the war. Nurses have been protec patients for as long as possible during the war. There were also case where the nurse carried patient with Medical doctors and students. Nurses have valued patient safety more than their or lives We have changed the education system many times, however we have always valued teaching the Keio university. This research has traced the history of our nursing education and has becon						
Publication year 2019 Jittle 学事振興資金研究成果実績報告書 (2018.) JaLC DOI Abstract 慶應義塾における看護教育は、1918年の慶應義塾大学医学部付属看護婦養成所設立に始まり、18年度に100周年を迎えた。本年度までに、同窓会である紅梅会の会報と、歴代の卒業アルバムや行事写真等のおよそ110日デジタル化した。さらに、学校史料として、1917年の設置認可など、慶應看護の変遷に関わる料を整理した。古い資料は、劣化も激しく、今後に向け、保存方法の検討とデジタル化を行っ。これは、慶應義塾福澤研究センターの専門的な助言と看護医療学部図書室の鈴木、赤堀によ。また、小池、朴、田村、安田、中屋、山内、藤井らは、資料の分類整理し、建物や教育、服史等の慶應看護100年をまとめてきた。 2018年度は、小池、山内、田村により、1945年の空襲による火傷で入院された小泉信三元塾長の看護に関わった看護婦にインタビューした。同時に、太平津戦時下の信濃町の空襲の様子もられた。看護婦、医師らは、力を合わせ、患者を安全な病様に移送した。爆弾が体の横を通る中、担架をかつぎ、時に患者をおぶるなどして、避難したという。入院患者は一人の死者を出ず、極限状態において自らの命をかけて看護を全うした誇りが静かに語られた。1957年には、泉信三元塾長より、慶應看護にで「愛スルモノハ強シ」という色紙を寄せていただいた。その言葉は、様章の裏に刻まれた時代もあり、慶應看護の真臓として引き継がれることを示唆した慶應看護教育の名称は幾度となく変化してきたが、慶應看護は中に託す貴重な史実を明らかにした湘南藤沢学会や慶應義塾出版会の協力による慶應看護100年史と写真集の完成、DMC統合研究ンター制作による記念映像などの多くの尽力と、3年間の学事振興資金による補助により、慶看護10年のアーカイブ化が遂行できた。Nursing education in Keio University began in 1918 and marked the 100th anniversary this year We digitized more than 100 books, such as alumni bulletins, graduation albums and photo book The old material was quite deteriorated. For this reason, we changed the preservation method. In this year, we interviewed nurses of University president, Shinzo Koizumi's former nursing tea in 1945. We heard about the hospital situation in Keio during the war. Nurses have been protec patients for as long as possible during the war. There were also cases where the nurse carried patient with Medical doctors and students. Nurses have bean protec patient with Medical doctors and students. Nurses have bear protect patient with Medical doctors and students. Nurses have be cases where the nurse carried patient with Medical doctors and students. Nurses have be always valued teaching the Keio university. This research has traced the history of our nursing education and has becond the preservent and has becond the preservation and has becond the preservent and has becond the preservation and has becond the preservent and has becond the preservation and has becond the preservation and has becond the preservation and has becond the pres						
Julitie 学事振興資金研究成果実績報告書 (2018.) JaLC DOI Abstract 慶應義塾における看護教育は、1918年の慶應義塾大学医学部付属看護婦養成所設立に始まり、18年度に100周年を迎えた。 本年度までに、同窓会である紅梅会の会報と、歴代の卒業アルバムや行事写真等のおよそ1100元ジタル化した。さらに、学校史料として、1917年の設置認可など、慶應看護の変遷に関わる料を整理した。古い資料は、劣化も激しく、今後に向け、保存方法の検討とデジタル化を行っ。これは、慶應義塾福澤研究センターの専門的な助言と看護医療学部図書室の鈴木、赤堀によ。また、小池、朴、田村、安田、中尾、山内、藤井らは、資料の分類整理し、建物や教育、服史等の慶應看護の年をまとめてきた。 2018年度は、小池、山内、田村により、1945年の空襲による火傷で入院された小泉信三元塾長の看護に関わった看護婦にインタビューした。同時に、太平洋戦時下の信濃町の空襲の様子もられた。看護婦、医師らは、力を合わせ、患者を安全な病棟に移送した。爆弾が体の棟を通る中、担架をかつぎ、時に患者をおぶるなどして、避難したという。入院患者は一人の死者を出ず、極限状態において自らの命をかけて看護を全うした誇りが静かに語られた。1957年には、泉信三元塾長より、慶應看護にで「愛スルモノハ強シ」という色紙を寄せていただいた。その言葉は、襟章の裏に刻まれた時代もあり、慶應看護の真髄として引き継がれることを示唆した慶應看護の裏に刻まれた時代もあり、皮の世代に託す貴重な史実を明らかにした湘南藤沢学会や慶應義塾出版会の協力による慶應看護100年史と写真集の完成、DMC統合研究ンター制作による記念映像などの多くの尽力と、3年間の学事振興資金による補助により、慶看護100年のアーカイブ化が遂行できた。Nursing education in Keio University began in 1918 and marked the 100th anniversary this year We digitized more than 100 books, such as alumni bulletins, graduation albums and photo book The old material was quite deteriorated. For this reason, we changed the preservation method. In this year, we interviewed nurses of University president, Shinzo Koizumi's former nursing tea in 1945. We heard about the hospital situation in Keio during the war. Nurses have been protect patient with Medical doctors and students. Nurses have valued patient safety more than their or lives We have changed the education system many times, however we have always valued teaching the Keio university. This research has traced the history of our nursing education and has becon	Publisher					
Julitie 学事振興資金研究成果実績報告書 (2018.) JaLC DOI Abstract 慶應義塾における看護教育は、1918年の慶應義塾大学医学部付属看護婦養成所設立に始まり、18年度に100周年を迎えた。 本年度までに、同窓会である紅梅会の会報と、歴代の卒業アルバムや行事写真等のおよそ110冊デジタル化した。さらに、学校史料として、1917年の設置認可など、慶應看護の変遷に関わる料を整理した。古い資料は、劣化も激しく、今後に向け、保存方法の検討とデジタル化を行っ。これは、慶應義塾福澤研究センターの専門的な助言と看護医療学部図書室の鈴木、赤堀によ。また、小池、朴、田村、安田、中尾、山内、藤井らは、資料の分類整理し、建物や教育、服史等の慶應看護100年をまとめてきた。 2018年度は、小池、山内、田村により、1945年の空襲による火傷で入院された小泉信三元塾長の看護に関わった看護婦にインタビューした。同時に、太平洋戦時下の信濃町の空襲の様子もられた。看護婦、医師らは、力を合わせ、患者を安全な病棟に移送した。爆弾が体の検を通る中、担架をかつぎ、時に患者をおぶるなどして、避難したという。入院患者は一人の死者を出ず、極限状態において自らの命をかけて看護を全うした誇りが静かに語られた。1957年には、泉信三元塾長より、慶應看護にで「愛スルモノハ強シ」という色紙を寄せていただいた。その言葉は、襟章の裏に刻まれた時代もあり、慶應看護の真髄として引き継がれることを示唆した慶應看護の裏に刻まれた時代もあり、慶應看護の上で、おの世代に託す貴重な史実を明らかにした湘南藤沢学会や慶應義塾出版会の協力による慶應看護100年史と写真集の完成、DMC統合研究ンター制作による記念映像などの多くの尽力と、3年間の学事振興資金による補助により、慶看護100年のアーカイブ化が遂行できた。Nursing education in Keio University began in 1918 and marked the 100th anniversary this year We digitized more than 100 books, such as alumni bulletins, graduation albums and photo book The old material was quite deteriorated. For this reason, we changed the preservation method. In this year, we interviewed nurses of University president, Shinzo Koizumi's former nursing tea in 1945. We heard about the hospital situation in Keio during the war. Nurses have been protect patient with Medical doctors and students. Nurses have valued patient safety more than their or lives We have changed the education system many times, however we have always valued teaching the Keio university. This research has traced the history of our nursing education and has becon	Publication year					
Abstract 慶應義塾における看護教育は、1918年の慶應義塾大学医学部付属看護婦養成所設立に始まり、18年度に100周年を迎えた。本年度までに、同窓会である紅梅会の会報と、歴代の卒業アルバムや行事写真等のおよそ110仟デジタル化した。さらに、学校史料として、1917年の設置認可など、慶應看護の変遷に関わる料を整理した。古い資料は、劣化も激しく、今後に向け、保存方法の検討とデジタル化を行っ。これは、慶應義塾福澤研究センターの専門的な助言と看護医療学部図書室の鈴木、赤堀によ。また、小池、朴、田村、安田、中尾、山内、藤井らは、資料の分類整理し、建物や教育、服史等の慶應看護100年をまとめてきた。 2018年度は、小池、山内、田村により、1945年の空襲による火傷で入院された小泉信三元塾長の看護に関わった看護婦にインタビューした。同時に、太平洋戦時下の信濃町の空襲の様子もられた。看護婦、医師らは、力を合わせ、患者を安全な病棟に移送した。爆弾が体の横を通る中、担架をかつぎ、時に患者をおぶるなどして、避難したという。入院患者は一人の死者を出ず、極限状態において自らの命をかけて看護を全うした誇りが静かに語られた。1957年には、泉信三立塾長より、慶應看護でデダスルモノハ強シ」といら色紙を寄せていただいた。その言葉は、様章の裏に刻まれた時代もあり、慶應看護の真髄として引き継がれることを示唆した慶應看護教育の名称は幾度となく変化してきたが、慶應看護は常に義塾の中で学びを深めてき。本研究は、慶應看護の外上たるの足跡をたどり、次の世代に託す真卑の完成、DMC統合研究ンター制作による記念映像などの多くの尽力と、3年間の学事振興資金による補助により、慶看護100年のアーカイブ化が遂行できた。Nursing education in Keio University began in 1918 and marked the 100th anniversary this year We digitized more than 100 books, such as alumni bulletins, graduation albums and photo book The old material was quite deteriorated. For this reason, we changed the preservation method. In this year, we interviewed nurses of University president, Shinzo Koizum's former nursing tea in 1945. We heard about the hospital situation in Keio during the war. Nurses have been protec patients for as long as possible during the war. There were also cases where the nurse carried patient with Medical doctors and students. Nurses have valued patient safety more than their or lives We have changed the education system many times, however we have always valued teaching the Keio university. This research has traced the history of our nursing education and has becon						
を應義塾における看護教育は、1918年の慶應義塾大学医学部付属看護婦養成所設立に始まり、18年度に100周年を迎えた。本年度までに、同窓会である紅梅会の会報と、歴代の卒業アルバムや行事写真等のおよそ110冊デジタル化した。さらに、学校史料として、1917年の設置認可など、慶應看護の変遷に関わる料を整理した。古い資料は、劣化も激しく、今後に向け、保存方法の検討とデジタル化を行っ。これは、慶應義塾福澤研究センターの専門的な助言と看護医療学部図書室の鈴木、赤堀によ。また、小池、朴、田村、安田、中尾、山内、藤井らは、資料の分類整理し、建物や教育、服史等の慶應看護100年をまとめてきた。 2018年度は、小池、山内、田村により、1945年の空襲による火傷で入院された小泉信三元塾長の看護に関わった看護婦にインタビューした。同時に、太平洋戦時下の信濃町の空襲の経子もられた。看護婦、医師らは、力を合わせ、患者を安全な病棟に移送した。爆弾が体の横を通る中、担架をかつぎ、時に患者をおぶるなどして、避難したという。入院患者は一人の死者を出ず、極限状態において自らの命をかけて看護を全うした誇りが静かに語られた。1957年には、泉信三元塾長より、慶應看護にで「愛スルモノハ逸シ」という色紙を寄せていただいた。その言葉は、襟草の裏に刻まれた時代もあり、慶應看護は常に義塾の中で学びを深めてき。本研究は、慶應看護の先人たちの足跡をたどり、次の世代に託づ貴重な史実を明らかにした湘南藤沢学会や慶應義塾出版会の協力による慶應看護は常に義塾の中で学びを深めてき。本研究は、慶應看護の先人たちの足跡をたどり、次の世代に託づ貴重な史実を明らかにした湘南藤沢学会や慶應義塾出版会の協力による慶應看護100年のアーカイブ化が遂行できた。 Nursing education in Keio University began in 1918 and marked the 100th anniversary this year We digitized more than 100 books, such as alumni bulletins, graduation albums and photo book The old material was quite deteriorated. For this reason, we changed the preservation method. In this year, we interviewed nurses of University president, Shinzo Koizumi's former nursing teal in 1945. We heard about the hospital situation in Keio during the war. Nurses have been protec patients for as long as possible during the war. There were also cases where the nurse carried patient with Medical doctors and students. Nurses have valued patient safety more than their or lives We have changed the education system many times, however we have always valued teaching the Keio university. This research has traced the history of our nursing education and has become were always valued teaching the Keio university. This research has traced the history of our nursing education and has become were always valued teaching the Keio university. This research has traced the history of our nursing education and has become were always valued teaching the Keio university. This research has traced the history of our nursing education and has become were always valued teaching the Keio university. This	JaLC DOI	」 テルハス エッフロペル大/IRTNロロ (2010.)				
Three years of continuous research allowed us to store and publish valuable materials.	Abstract	本年度までに、同窓会である紅梅会の会報と、歴代の卒業アルバムや行事写真等のおよそ110冊をデジタル化した。さらに、学校史料として、1917年の設置認可など、慶應看護の変遷に関わる資料を整理した。古い資料は、劣化も激しく、今後に向け、保存方法の検討とデジタル化を行った。これは、慶應義塾福澤研究センターの専門的な助言と看護医療学部図書室の鈴木、赤堀による。また、小池、朴、田村、安田、中尾、山内、藤井らは、資料の分類整理し、建物や教育、服装史等の慶應看護100年をまとめてきた。 2018年度は、小池、山内、田村により、1945年の空襲による火傷で入院された小泉信三元塾長への看護に関わった看護婦にインタビューした。同時に、太平洋戦時下の信濃町の空襲の様子も語られた。看護婦、医師らは、力を合わせ、患者を安全な病棟に移送した。爆弾が体の横を通る最中、担架をかつぎ、時に患者をおぶるなどして、避難したという。入院患者は一人の死者を出さず、極限状態において自らの命をかけて看護を全うした誇りが静かに語られた。1957年には、小泉信三元塾長より、慶應看護にで「愛スルモノハ強シ」という色紙を寄せていただいた。そのお言葉は、襟章の裏に刻まれた時代もあり、慶應看護の真髄として引き継がれることを示唆した。慶應看護の表がは幾度となく変化してきたが、慶應看護は常に義塾の中で学びを深めてきた。本研究は、慶應看護の先人たちの足跡をたどり、次の世代に託す貴重な中で学びを深めてきた、本研究は、慶應看護の先人たちの足跡をたどり、次の世代に託す貴重な中で学びを深めてきたンター制作による記念映像などの多くの尽力と、3年間の学事振興資金による補助により、慶應看護100年のアーカイブ化が遂行できた。Nursing education in Keio University began in 1918 and marked the 100th anniversary this year. We digitized more than 100 books, such as alumni bulletins, graduation albums and photo books. The old material was quite deteriorated. For this reason, we changed the preservation method. In this year, we interviewed nurses of University president, Shinzo Koizumi's former nursing team in 1945. We heard about the hospital situation in Keio during the war. Nurses have been protecting patients for as long as possible during the war. There were also cases where the nurse carried the patient with Medical doctors and students. Nurses have valued patient safety more than their own lives We have changed the education system many times, however we have always valued teaching in the Keio university. This research has traced the history of our nursing education and has become a valuable historical fact to entrust to the next generation.				
Notes	Notes	The second second second second and passion valuation materials.				
Genre Research Paper		Research Paper				
		https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2018000006-20180377				

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2018 年度 学事振興資金(共同研究)研究成果実績報告書

研究代表者	所属	看護医療学部	職名	教授	補助額	1,550	千円
初光 (教名	氏名	藤井 千枝子	氏名 (英語)	Chieko Fujii	一一一一一一一	1,550	113

研究課題 (日本語)

慶應義塾の看護教育:百年のあゆみ

研究課題 (英訳)

Hundred-year history of Nursing education in Keio University

研究組織						
氏 名 Name	所属・学科・職名 Affiliation, department, and position					
藤井千枝子(Chieko Fujii)	看護医療学部 教授					
小池智子(Tomoko Koike)	看護医療学部 准教授					
朴 順禮(Sunre Paku)	看護医療学部 専任講師					
田村 紀子(Noriko Tamura)	看護医療学部 助教					
山内 慶太 (Keita Yamauchi)	看護医療学部 教授					
鈴木 有紀(Yuki Suzuki)	湘南藤沢メディアセンター事務員(看護医療学図書室担当)					

1. 研究成果実績の概要

慶應義塾における看護教育は、1918 年の慶應義塾大学医学部付属看護婦養成所設立に始まり、2018 年度に 100 周年を迎えた。本年度までに、同窓会である紅梅会の会報と、歴代の卒業アルバムや行事写真等のおよそ 110 冊をデジタル化した。さらに、学校史料として、1917 年の設置認可など、慶應看護の変遷に関わる資料を整理した。古い資料は、劣化も激しく、今後に向け、保存方法の検討とデジタル化を行った。これは、慶應義塾福澤研究センターの専門的な助言と看護医療学部図書室の鈴木、赤堀による。また、小池、朴、田村、安田、中尾、山内、藤井らは、資料の分類整理し、建物や教育、服装史等の慶應看護 100 年をまとめてきた。2018 年度は、小池、山内、田村により、1945 年の空襲による火傷で入院された小泉信三元塾長への看護に関わった看護婦にインタビューした。同時に、太平洋戦時下の信濃町の空襲の様子も語られた。看護婦、医師らは、力を合わせ、患者を安全な病棟に移送した。爆弾が体の横を通る最中、担架をかつぎ、時に患者をおぶるなどして、避難したという。入院患者は一人の死者を出さず、極限状態において自らの命をかけて看護を全うした誇りが静かに語られた。1957 年には、小泉信三元塾長より、慶應看護にで「愛スルモノハ強シ」という色紙を寄せていただいた。そのお言葉は、襟章の裏に刻まれた時代もあり、慶應看護の真髄として引き継がれることを示唆した。

慶應看護教育の名称は幾度となく変化してきたが、慶應看護は常に義塾の中で学びを深めてきた。本研究は、慶應看護の先人たちの 足跡をたどり、次の世代に託す貴重な史実を明らかにした。湘南藤沢学会や慶應義塾出版会の協力による慶應看護 100 年史と写真 集の完成、DMC 統合研究センター制作による記念映像などの多くの尽力と、3年間の学事振興資金による補助により、慶應看護 100 年のアーカイブ化が遂行できた。

2. 研究成果実績の概要(英訳)

Nursing education in Keio University began in 1918 and marked the 100th anniversary this year.

We digitized more than 100 books, such as alumni bulletins, graduation albums and photo books. The old material was quite deteriorated. For this reason, we changed the preservation method.

In this year, we interviewed nurses of University president, Shinzo Koizumi's former nursing team in 1945. We heard about the hospital situation in Keio during the war. Nurses have been protecting patients for as long as possible during the war. There were also cases where the nurse carried the patient with Medical doctors and students. Nurses have valued patient safety more than their own lives

We have changed the education system many times, however we have always valued teaching in the Keio university. This research has traced the history of our nursing education and has become a valuable historical fact to entrust to the next generation.

Three years of continuous research allowed us to store and publish valuable materials.

3. 本研究課題に関する発表 学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月) 発表者氏名 発表課題名 発表学術誌名 (著書発行所・講演学会) (著者・講演者) (著書名・演題) 慶應義塾大学出版会 慶應看護 100 年史 慶應義塾大学看護医療学部 2018.5 慶應看護100年史編纂委員 写真でみる慶應看護 100 年 慶應義塾大学出版会・慶應義塾大 2018.3 学湘南藤沢学会 小池智子、山内慶太ほか 戦時に小泉信三先生を看護して 三田評論 2018.12